

ホームシアターファイル

2019 SPRING vol.88 ¥1,300

プロが選んだNo.1プロダクト

ホームシアターグランプリ 2019



6畳100インチで使える
スリムスピーカー



CUSTOM
ELECTRONIC
DESIGN &
INSTALLATION
ASSOCIATION

ホームシアターファイルは
CEDIA メンバーです



ホームシアターファイルが
コンテンツマガジン

いまつくりたい、
夢の専用室



Special Review

たった1つのチェアで包まれる音 3畳でできる究極の専用室

趣味部屋という専用室シアターのために間取りの確保ができない——。
そうした理由で専用室を諦めていた人にチェックしてほしいのが、Audio Heartのスピーカーチェアだ。

本機は卵状にラウンドした壁面の内側に高性能なスピーカーを内蔵。
サラウンドサウンドを独り占めする、ありそうでなかった新発想のチェアである。
今回は新作「VSR-2」を中心に、3畳あれば設置できる本機の魅力に迫ろう。

文／編集部

**決してギミックではなく
中身は超が付く正統派**

ホームシアターの専用室。それは映像世界に没入できる至高の環境である。それを3畳ほどの空間でつくれるならどうだろうか。そんな男の夢を叶えてくれるアイテムが、Audio Heartのスピーカーチェア「VSR-2」である。本機は卵状にラウンドした椅子の中にスピーカーが設置されており、近接視聴が可能な4Kテレビと組み合わせるだけで、映像世界へと引き込まれるプライベートシアターがつけれるのだ。

本機のスピーカー構成は7.2ch。フロント／センター／スピーカーは顔の高さに合わせて配置され、サラウンドスピーカーは頭部後方に配置。一方、兄弟モデル「VSR-1」は内部に11.2ch分のスピーカーを内蔵し、ドルビーアトモス再生にも対応したフラグシップモデルだ。

各スピーカーの場所は、内部の反響音や定在波の影響、吸音材の量、空間の広さなど、複雑に絡み合う音響特性を測定しつつ実際の音を確認し、追い込んでいった理想的なものだ。ここに長年スピーカー開発に従事してきた同社開発者のノウハウが活かされている。

音のプロが体感した 「VRS-1」のサラウンド

ここではフラグシップ「VRS-1」を体感した
DOLBY JAPAN株式会社の担当者に
サラウンドの印象を伺ったのでご紹介しよう。

DOLBY JAPAN株式会社
テクニカル・マーケティング・マネージャー
ゲームス

近藤広明氏 談

「コナミデジタルエンタテインメントより発売されているゲームタイトル『ANUBIS ZONE OF THE ENDERS : MY RS』の Windows版が Dolby Atmos出力にネイティブ対応しており、同作品を「VRS-1」でプレイしました。自機を360度取り囲むようなゲーム内の効果音がリアルに楽しめます。このゲームはコックピットに乗り込んでロボットを操縦するという設定のゲームなのですが、ロボットAIの声や無線通信音は上方から聞こえてくるという演出は Dolby Atmosだからこそ実現できます。このゲームは「VRS-1」の「箱に入り込んで聴く」という体験との相性が抜群で、上記の効果音表現のリアルさも相まって「本当にロボットに乗り込んでいる」という没入感を得られました」。

DOLBY JAPAN株式会社
技術サポート部
シニアテクニカル・マネージャー
鈴木敏之氏 談

「とても自然な音である事に感銘を受けました。ホームシアターと比較するとスピーカーとの距離が極端に近いので、その影響が出ることを想像したのですが、ほとんど違和感を感じることなく、実際のホームシアターに近い、Dolby Atmos特有の没入感を体験する事ができました。実際の映画館で映画の本編のはじまる前に再生されるDolbyのトレーラー(Leaf、Amaze)で音を確認しましたが、Dolby Atmosの特徴となるObject Audio(位置情報を持った音声信号)の効果が非常にわかりやすかったです。なお余談ですが、聴き終わった後にスピーカーチェアを離れると、他の人が音を聴いている時のスピーカーチェアからの音漏れが少ないことにも驚かされました」。

現在試聴できるのは、秋葉原の 「ONKYO BASE」



〒101-0041
東京都千代田区神田須田町1丁目25番地4
mAAcute KANDA MANSEIBASHI
☎080-8310-6278
営業時間:11:00~20:00 定休日:不定休

サラウンドスピーカー内蔵チェア

Audio Heart VRS-2

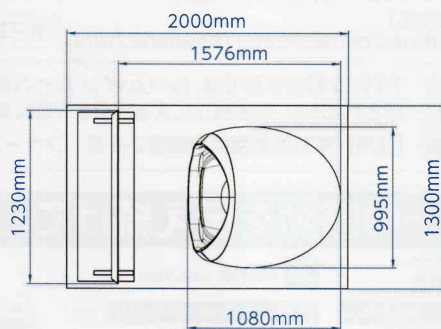
¥680,000(税抜)

SPEC ●チャンネル構成:7.2ch ●ユニット:8cmウーファー
搭載2WAYスピーカー×2(フロント用)、8cmウーファー搭載
2WAYスピーカー×2(センター用)、5cmフルレンジ×4(サ
ラウンド、サラウンドバック用)、16cmウーファー×2(サブウ
ーファー用) ●外形寸法:995W×1,340H×1,080Dmm ●
質量:90kg



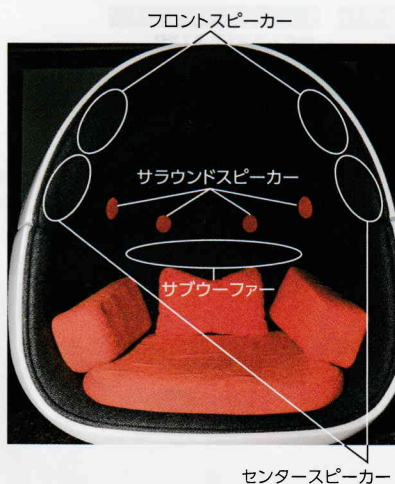
●VRS-2を設置するのに必要なスペースとは？

→3畳あれば
OK!



4K解像度は近接視聴しても画素が気にならないほど細かいため、テレビの高さの約1.5倍が推奨視聴位置である。左の図は55インチのテレビとの組み合わせを想定した寸法図で、短辺1.8m、長辺2.7mという3畳間でも充分設置が可能なのだ。しかも椅子に座ると眼前の情報、つまりテレビが視野角いっぱいになり、まるで暗室で視聴しているかのような没入感が得られる。

●サラウンドはどのように再生するのか？



→ドーム内に
7.2chある

ドーム内には7.2ch構成、センタースピーカーを左右に振りかけた仮想再生とした合計10基のスピーカーが搭載されている。内部は高級車のような長時間座っても圧迫感のないスペースが確保されており、吸音材で内部の反響音を調整している。再生にはAVアンプが別途必要となるが、独自開発の小口径2ウェイスピーカーを採用するので、アンプ出力が高くないモデルを選んでも充分駆動させることができる。また、背面に設置したサブウーファーも独自開発しており、量感を出しつつもタイトな再生になるように、設計されている。

今回「VRS-2」を体感したが、スピーカー特性がよいことにまず驚いた。音の立ち上がり俊敏で非常に明快なサウンドだ。音の強弱表現もうまく、空間の奥行きまで見通せるため、物理的に壁に包まれているという圧迫感はなく感じず、むしろ周辺が暗くなることで仕事を忘れるほど眼前に広がる映画の世界に引き込まれてしまった。ヘッドホンでは楽しめないリアルサラウンドによる圧倒的な没入感。省スペースでもつくれる究極の専用室を味わえるのは「ONKYO BASE」と「ホームシアター工房 大阪」だ。後者は2月下旬までの期間限定展示なので、ぜひこの機会にご体感いただきたい。